

そのままよ
月もたのまじ
伊吹山

芭蕉



大阪滋賀県人会会長 植本 勇

本年は、コロナ以前の生活や経済活動を取り戻すための「重要な位置付けの年」であり、人類の英知が、コロナに打ち勝つ一年であって欲しいと願っています。

昨年の滋賀県人会活動は、そのほとんどが、中止・延期となりましたが、本年は役員改選後でもあり、新しい陣容で臨むことになりました。特に若い新役員皆さんの意見は大変新鮮で、大阪滋賀県人会の明日に大きな期待を抱かせてくれます。

会員増強三ヶ年計画は、昨年末で終了しましたが、コロナ感染の対応もあり、十分な成果を上げることは出来ませんでした。しかしV字回復の傾向を評価し、これからの三年間は、当会創立 70 年を見据えて、新たな会員増強に取り組んで参ります。その手始めとして、「入会手引書Q&A」を作りました。



滋賀県知事 三日月大造

植本会長はじめ大阪滋賀県人会の皆様方には、滋賀県政全般にわたり格別の御支援と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。「ふるさと滋賀」でつながる国内外の滋賀県人会は、私にとっても県民にとっても、滋賀の応援団として大変心強い存在となっております。

新型コロナウイルス感染症については、昨年も収束の兆しが見えず、「江州音頭納涼ファミリー大会」をはじめとしたイベントや会議が開催中止になるなど、大阪滋賀県人会の皆様方とお会いすることが難しい状況が続いており、大変残念に思っています。

ポストコロナ社会を見据え、自然とともに丁寧に暮らしてきた生活のリズムや県民の高い環境意識、三方よしの精神といった滋賀ならではの理念を「シガリズム」として推進することにより、本当の意味の「健康しが」をつくり、誰もが幸せと健やかさを実感することができる滋賀を目指してまいりたいと考えておりますので、引き続き、大阪滋賀県人会の皆様方のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

植本会長・三日月知事のメッセージは、近江路 96 号掲載『年頭挨拶』より一部抜粋

ようこそ…大阪滋賀県人会へ！ ぜひ ご入会下さい

Q 大阪滋賀県人会は、どうして生まれたのですか…？

A 2025 年〔令和 7 年〕大阪滋賀県人会は、創立 70 年を迎えます。汗と涙、喜びと悲しみ、そして故郷を同じくする同胞の強い絆で結ばれ、共に歩み、共に培った半世紀を越える活動の足跡は、何にも代え難い“心の財産”でしょう。

戦後間もない激動の時代、人が人として生きていく苦難の中で、その心の拠り所こそ、ふるさとへの思い出でありました。遠く故郷を離れた者にとって、辛いとき、苦しいとき、心と心に蘇る故郷の情景に涙した方は少なくありません。

近江の国・滋賀は、周囲を鈴鹿・比良の両山系に囲まれ、中央に母なる琵琶湖を抱き、風光明媚

な自然に恵まれていますが、土地の大部分が山と湖で占められ“生活の場”は余りにも少ないです。家督は長兄が継承し、次兄以降の兄弟は生まれ育った故郷を巣立ち、他国に生計の居を構える方が多くいました。

こうした環境が人々を育てたのでしょうか、『故郷に錦を飾る』という大きな夢を抱きつつ、“進取の気質”という言葉が生まれ、不屈の精神が培われました。同じ環境に身を置く者同士が、心を通わせ、手を携え、共に歩もうとする機運が生まれ、大阪滋賀県人会の創立へと突き進んでいきました。

